

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成21年3月16日
TB08-283

タカラバイオと鹿児島大学大学院 連合農学研究科との 連携大学院において学生で第一号の博士(農学)が誕生しました

タカラバイオ株式会社(社長:加藤郁之進)と鹿児島大学(学長:吉田浩己)とは、文部科学省の許可を得て、平成17年4月より連携大学院を設置しておりましたが、今般、連携大学院の学生1名に対して博士(農学)の学位取得が承認され、本日の学位記授与式にて当該学生に学位が授与されました。学位論文のタイトルは「ブナシメジ(*Hypsizigus marmoreus*)由来ポリテルペンのHL-60細胞におけるアポトーシス誘導機構」です。この連携大学院で学生が博士(農学)の学位を取得するのは初めてです。

当社は、連携大学院において、当社の持つ先端バイオ技術と、鹿児島大学の研究シーズを生かした教育研究活動を行っており、鹿児島大学大学院での講義の他、当社の研究所において、連携大学院の学生に対して、食品機能を遺伝子レベルで解明するニュートリジェノミクス分野や遺伝子工学研究分野における研究指導を行っております。

連携大学院では、平成19年度に学生1名が修士(農学)の学位を取得しております。また、論文博士の学位取得において、当社の社員1名が平成18年度に博士(農学)の学位を、平成20年度にはもう1名が博士(学術)の学位をそれぞれ取得しました。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この資料は、3月16日に京都経済記者クラブに配布しています。

この件に関するお問い合わせ先
タカラバイオ株式会社
バイオインダストリー部
Tel 077-543-7235

<参考資料>

【連携大学院】

大学と企業等の研究機関が、協力して大学院教育を行うものです。大学と企業との連携大学院の場合は、企業の研究者が大学院の客員教授・客員准教授に就任し、大学院での講義や、企業内で大学院生の教育・研究指導を行います。

【連携大学院の概要】

修士課程

鹿児島大学大学院 農学研究科 生物資源化学専攻 食品機能化学講座
教育研究分野:先端バイオテクノロジー

博士課程

鹿児島大学大学院 連合農学研究科 生物資源利用科学専攻 資源利用化学
連合講座
教育研究分野:ニュートリジェノミクス、遺伝子工学

当社の加藤郁之進(取締役社長 バイオ研究所長)及び浅田起代蔵(専務取締役 バイオ研究所副所長)が、客員教授として指導を行っております。

【鹿児島大学大学院 連合農学研究科】

鹿児島大学大学院 連合農学研究科(博士課程)は、鹿児島大学大学院、佐賀大学大学院、琉球大学大学院の3農学研究科(修士課程)と鹿児島大学大学院水産学研究科(修士課程)が連合することによって形成されています。